

博修士会会報

Alumni Bulletin For K.U.Masters and Doctors 2015年7月1日発行

▲図書館



ごあいさつ

関西大学博修士会会长 北嶋 弘一

関西大学博修士会は、昭和27年（1952年）に設立されて以来、本年63年目を迎えます。会員の皆様におかれましては、ますますご清祥にて各地ならびに各界においてご活躍のこととお慶び申し上げますとともに、平素より本会の運営に対しまして心温まるご助言をはじめ特別協力金のご寄付など数々のご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

本年は、戦後70年を迎えて様々な形で一つの区切りをつけることになりますが、隣国とのわだかまりは一向になくなる気配がありません。アベノミクスによる歯止めの利かない円安、原油安、株価の上昇によって自動車業界や大手企業はその恩恵を受けておりますが、ベースアップも物価の上昇には焼け石に水のように思われます。また、中小企業の底上げにまで至っていない厳しい経済状況にありますが、学生の就職状況はかなり好転していることがせめてもの救いであります。

関西大学大学院修了生の総数は19,000名を超える、校友会組織の中でも大所帯を誇る同窓会に成長を遂げてまいっております。現在の関西大学大学院は、法学、文学、経済学、商学、社会学、総合情報学、理工学、外国語教育学、心理学、社会安全、東アジア文化、ガバナンス、人間健康、法務、会計、臨床心理の16研究科を擁する博士課程前期課程および同後期課程に専門職学位課程を有する我が国屈指の大学院に発展・成長しております。

去る3月23日に挙行されました大学院学位記授与式では、

541名の修士と80名の専門職を合せた621名の修了生および49名の博士を本会の新たな会員に迎えるとともに、昨年9月期の学位記授与式では16名の修士と13名の専門職の計29名の修了生および12名の博士を迎えました。また、4月2日に行われました大学院入学式では16研究科749名のフレッシュな新入生を迎え、関西大学の学問および研究の中枢として、また来年創立130周年を迎える母校の更なる飛躍を担っていただくことを期待するものであります。

下記にご案内のとおり、来る8月1日（土）には平成27年度博修士会総会・学術講演会を開催いたします。本年度の総会後の学術講演会では、我が国の科学技術分野において顕著な功績を挙げた者に贈られる平成27年度の文部科学大臣表彰「科学技術賞」を受賞され、関西大学と各種食品メーカーとの共同による様々な商品化を進めておられる化学生命工学部教授の河原秀久先生をお招きして、「生物由来不凍タンパク質の機能と冷凍食品への応用」と題した講演をお願いしております。会員の皆様には是非ともご出席戴き、河原先生と親しく懇親を交わしていただきたいと考えております。

会員の皆様には、公私にわたり大変ご多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、8月1日（土）、関西大学千里山キャンパスの校友・父母会館において開催の平成27年度博修士会総会・学術講演会ならびに懇親会にご出席下さいますよう心より役員一同お待ち申し上げております。

平成27年度 総会・講演会・懇親会のご案内

日 時：平成27年8月1日（土） 13:00より受付開始

場 所：関西大学千里山キャンパス 校友・父母会館

内 容：第1部：総会

13:30～14:30 2階会議室

第2部：学術講演会

14:30～15:30 2階会議室

演題「生物由来不凍タンパク質の機能と
冷凍食品への応用」

講師：河原 秀久 先生
(関西大学化学生命工学部 教授)

第3部：懇親会

15:40～17:30 レストラン「紫紺」

総会・懇親会参加者：会員＋会員の紹介者に限定

(事前申込制：郵便振替とする)

総会・懇親会会費：会員と同伴者は5,000円、院生会員は無料

お願ひ：ご出席の方は、7月25日（土）までに、事前に郵便振替でお申し込み下さい。

■郵便振替：00900-2-68733

関西大学博修士会：
通信欄に「総会費」など
ご記入下さい。

■問合せ先：博修士会総務部

■FAX：06-6368-8476

校友会 気付 博修士会 宛

■e-mail：p155208@kansai-u.ac.jp

(総務部：中原 宛)

■はがき：〒564-8680

吹田市山手町3-3-35

関西大学／校友会 気付 博修士会



関西大学化学生命工学部
教授

河原 秀久 先生

会員からのメッセージ

恩師に導かれて



藤原 有和
法修50公法 博士（文学）

私は、北陸地方の山間部にある浄土真宗の末寺に生まれました。全国的に学生運動が盛んであった1969年、関西大学法学校部に入学しましたが、院生の頃、「部落地名総鑑」購入問題が起きました。これを契機として部落問題研究室が発足すると、恩師の石尾芳久先生と小西愛之助先生は研究室員となって、泉佐野市と茨木市の部落史編纂に従事されました。幸運にもこのとき史料調査に参加させていただいたことが、私の研究の出発点となっています。その後、母校に職員として就職し、古文書の整理、教務、年史編纂、出版などの業務に携わり、この3月末に退職しました。

このたび、私が文学研究科へ提出した博士論文のテーマは、

「近世被差別民の法制史的考察」です。主査は藪田貴先生です。近世の大坂では、悲田院（天王寺）など四ヶ所に非人（乞食）が集められています。第1章では、悲田院などの非人集団のリーダー（「長吏」）が転びキリスト教徒および転びキリスト教徒類族であることを明らかにしました。キリスト教徒が宗教思想の弾圧を受けて身分をとされたということです。さらに和歌山城下の非人村長吏も転びキリスト教徒類族と考えられます。長吏は警察の仕事（キリスト教徒の摘発を含む）を強要されていました。第4章では、西本願寺の末寺と本山の記録から、被差別部落の人びとが、仏の前の平等思想に基づいて本山に対して、部落差別を止めるよう訴えたことを明らかにしました。この2篇は恩師の学説を新史料によって、実証したものです。

私は、4月から京都にある浄土真宗本願寺派の僧侶養成学校に通っています。私が所属しているクラスの年齢構成は20代を中心で、18歳から64歳（私）まで幅があります。42名のうち10名が女子です。毎朝の勤行では、正座がつらいです。この3月までの日常とは違って、戸惑うことが多いのですが、クラスメートに元気づけられて学校生活を送っています。

八十路の二人旅



ノーベル賞受賞の根岸英一博士と
(ストックホルム市庁舎でのノーベルディナーにて)

羽生 和子
(平20博文)

八十歳まで開業医としてまとまった休暇も取れなかった夫と薬剤師として3人の子育てに超多忙だった私がいよいよラストチャンスと思い、世界一周のクルージングに挑むことにした。

豪華客船「飛鳥II」で5大陸（オーストラリア大陸、アフリカ大陸、ユーラシア大陸、南米大陸、北米大陸）を巡る航行距離は地球1周半になり、その間に21カ国に上陸し、インド洋、太平洋、大西洋の3大洋を掛け巡る壮大なプランであった。

いざ神戸港を出港してみると、乗客500人、平均年齢は72歳の老人集団であった。船内設備は、定員180人の壯麗な大食堂、大浴場、プール、図書室、囲碁室、麻雀室、ダンスフロア、美容室、スポーツジム、医務室、喫茶室など実際に良くできていた。

4か月のあいだ日本を離れた老人集団の閉鎖社会においては、日を重ねるにつれて特異な一面が見えてきた。それらを川柳に詠んでみた。

- ・頑なと唯我独尊一騎打ち
- ・社交ダンス化けて華やぐ元乙女
- ・幸せの定義が揺らぐ大航海
- ・群れて良し一人また良し長い旅
- ・竜宮城そろそろ陸が懐かしい

また、豪華客船からは想像もできないほどの試練が多くありました。インド洋や大西洋などでは1週間陸地を見ずに航行した。濃霧の中では24時間警笛を鳴らしながらゆるゆる航行したり、波も5メートルを超えると12階建の船体が50センチも上下した。船酔いになって点滴だけで数日間寝込む人が出たり、船内でインフルエンザが流行すると一部屋へ移されて外から施錠され回復するまで禁足されたりした。

その反面、パナマ運河の通過に際しては、海面から26メート

ル上の湖へ3段階の閘門の両側を日本製機関車によって船が曳航された。この運河を通航しないと航行日数が長くなるとともに5000マイル分の燃料代がかかるとのことであった。運河入口付近の海では、客船が優先するために順番待ちのタンカーやコンテナ船が群れをなしていた。

ニューヨークを訪れた際にはケネディ空港を利用したが、今回は同船で港への接岸が一大イベントであった。細長い場所への車庫入れにも似た作業で、船長も操舵室を出て船上に突出している運転席で長時間に亘って舵を取り続け、ようやく接岸に成功するや甲板上の乗客から歓声が沸き起こった。また、ニューヨークを離れる際には暮れなずむマンハッタンのネオンに見送られ、自由の女神の掲げるオレンジの灯が次第に遠くなっていく様を自室のバルコニーからひっそりと見送る気分は妙にノスタルジックであった。

このツアーの目玉は、5年前「有機合成におけるパラジュウム触媒カップリング」の研究でノーベル賞を受賞された根岸英一博士の格調高い講演を拝聴できることであった。その後、ストックホルム市庁舎での記念晩餐会はノーベル賞晩餐会と全く同じ形式で行われ、実に優雅で華麗な生演奏で始まり、500人の乗客はフォーマルな衣装に身を包み嬉々として参加していた。

この豪華客船内には一つとして時計が見当たらなかったが、その答えは航行してみて納得した。すなわち、赤道近くになると毎日一時間、時間を遅らせて調整して遂に6月26日が消えた？ 私の83年の人生にとって最大の衝撃であった。

地球を西回りで航行すれば人の住まない太平洋の真ん中で1日費やすれば辻褄が合わないし、東回りの場合には1日増やすとのことで1883年に開かれた万国子午線会議でこれが確定したことである。日記は6月26日が空白のままであり、乗客の中にはこれに何の反応も示さない人がいることにも再度驚いた。

ハワイから神戸へのラストの航海において、外洋での日の出の鮮やかさ、月面の清々しい美しさは感動ものであった。待ちに待った神戸港への帰国時には、船酔いならぬ岡酔い？で身体

関西大学から世界へ



商学研究科
闇 潤
(平27修商)

私は会計学に関する多様かつ深い知識をより専門的に学習した上で、日中関係および国際貿易の提携の増進に貢献したいと思い、日本への留学を決意し、2011年に、中国の大学から日本の大学の3年次に編入しました。そして、大学を卒業した後、2013年に関西大学大学院商学研究科へ進学しました。

この2年間、関西大学大学院商学研究科という恵まれた研究環境で、会計学理論研究を専修科目とし、会計学および経営学に関する知識を専門的に学び、学術的および実践的な能力を身につけてきました。毎日、図書館や研究室に通い、勉強に精一杯集中しました。研究論文を「日本の退職給付会計に関する課題と展望—歴史的変遷および国際基準との比較を中心として—」の論題で執筆しました。この研究論文では退職給付会計の対象とする退職一時金、および確定給付企業年金を研究の対象としました。現在までの日本の退職給付会計基準の改正の背景およびその内容、日本の退職給付会計基準と国際会計基準との差異についてそれぞれ検討しました。それらの変化および差異を明らかにすることを通じて、今日の日本の退職給付会計基準の課題を指摘し、それらの課題に関する対応策、および今後の

改善の方向性などについて、提言を行うことを目的としました。研究論文の作成にあたり、終始適切な助言を賜り、また細部にわたって丁寧に指導してくださった指導教授に感謝します。そして、大塚敏美育英奨学財団のご支援により経済的な不安を抱くことなく、学業へ専念することもできました。

授業および研究論文以外に、資格の取得（日商簿記検定試験の2級等）、就職活動、院生合同学術研究大会等にも力を入れ、大変充実した2年間を過ごしてきました。ボランティア活動にも積極的に参加しました。例えば、昨年の大阪マラソン大会で語学対応ボランティアとして活動し、世界各国のランナーや観光客の方々とふれあい、国際親善についてより良い理解ができるようになりました。

私はボーダーレスな思考ができ、将来はすべての人類へ貢献できるような仕事に就きたく、若いうちに世界を舞台に活躍できることを目指しています。博士課程前期課程修了後、関西大学大学院商学研究科で修得した会計学および経営学に関する知識を生かし、日本と母国との架け橋としてリーダーシップを発揮したいと考えていますので、日本の大手メーカーへの就職を決めました。今年の4月より入社し、現在、事業戦略部門の配属になり、研究および実務の成果をふまえて、国際貿易の提携を促進することに力を尽くしていきたいと強く思っています。

社会人として新たな人生の一歩を踏み出すにあたり、私のことを支えてくださった先生方や、奨学金財団の方々への恩と感謝の気持ちを忘れず、今後もより一層精進していきたいと思っています。

支えられ、導かれた感謝の二年間



文学研究科
吉木 謙次郎
(平27修文)

私は関西大学文学部を卒業後、関西大学大学院文学研究科に進学し、学部時代のテーマを主体として二年間、研究に取り組みました。努力の甲斐あって、学位記授与式では修了生総代として答辞を読ませて頂きましたが、それも学部時代よりご指導を賜った坂本武先生を始め、多くの方々に支え、そして導いて頂いたからこそだと、今振り返って思います。

実を言うと、私は当初、大学院への進学は考えていませんでした。大学院ともなると学部の時以上に意欲と知識、主体性が求められ、当時の私にはそういった環境で研究というものに邁進していく自信がありませんでした。そんな私の背中を押して下さったのが、他でもない坂本先生です。先生は私の卒業論文から可能性を見出だし、大学院進学を強く薦めて下さいました。卒業論文も優秀論文として表彰して頂いたことで自信が持て、大学院で更に学びたいという意欲が沸きました。

学部時代はエミリ・ブロンテの『嵐が丘』を題材に、登場人物の持つ役割について研究してきましたが、大学院ではその内容を更に深めていくことを考えました。伝記的資料があまり残されていない作者の思想や人物像、経験についての研究は、作品

や周囲の人物の書簡という間接的なアプローチが中心となります。誰も明確な答えを知らないので、解釈を論じるに当たってはその根拠と合理的な説明がより重要になってきます。そのためには広い視野で物事を見ていくことが必要になるので、大学院では様々なことに取り組みました。中でも特に印象に残っているのは、日本ブロンテ協会関西支部主催の夏季大会で行った研究発表です。高橋美帆先生やブロンテ協会からの薦めで発表することになったのですが、就職活動と並行して準備に当たることになったので、思っていた以上に大変でした。ゼミでは坂本先生からご指導を受けながら構想を練り、発表のプロットや細かな内容について議論を重ねていきながら、自身の考えを洗練していました。

大学院進学や研究発表といった貴重な経験ができたことは、私の人生の中で大きな財産になったと思います。こうした経験をすることができる、そして修了生総代という栄誉ある役目を任せて頂けたのも、坂本先生を始め、多くの先生方が導いて下さったからです。また、英文合研の西田さんを始め、関西大学の職員の皆様方に支えて頂いたことで、修士論文を書き上げ、博士前期課程を修了することができました。

私の今後の人生において、文学研究科での研究が直接社会の役に立つ機会があるかは分かりません。しかし、研究を通じて得た経験や、先生方から教わったことは必ず役に立つと思います。大学院での学びをこれから的人生で活かし、そして私が皆様に支え、導いて頂いたように、今度は私が何らかの形で、誰かの力になれるように頑張っていきたいと思います。

関西大学心理臨床センターのご紹介



臨床心理専門職大学院 教授
関西大学心理臨床センター
センター長
石田 陽彦

平成26年11月、心理臨床センター梅田カウンセリングルームが開室しました。既に平成16年に関西大学では千里山キャンパスに心理臨床カウンセリングルームを開設し、カウンセリング等の実施による地域の皆様への臨床心理学的サービス、および臨床心理学専攻の大学院生の教育、訓練と研究を行ってまいりました。平成21年には臨床心理専門職大学院を開設し、より充実したサービスと徹底した教育・研究の体制を進めてきました。このたび、新たなサービスの提供を目指し、梅田にもカウンセリングルームを開設することになりました。

2013年に厚生労働省がこれまでの4大疾病に精神疾患を加えたことは、職場でのうつ病や高齢化に伴う認知症の増加が大きな社会的な問題になっていることによるもので、その対応は緊急の課題とされています。また、東北大震災などの最近の自然災害の増加によって、家族や知人を失う喪失体験などで苦しまれている方々も増えています。かたや教育領域では発達障害と診断される子供達の増加が認められたり、「いじめ対策基本法」が施行されるなど、あらゆる世代の方々が社会の色々な場面で、不安や生きづらさを感じるようになってきていると言えるのかもしれません。更には、世界情勢の不安定要因が私たちの気持ちに何らか

の暗い影を投げかけていることは多くの人がお感じになられていることでしょう。心への関わり方もローカルな視点を大切にし、グローバルな視野を持つことが必要とされる時代が来たようです。

関西大学心理臨床センター梅田カウンセリングルームは従来の個人カウンセリングと、地域社会と手を結ぶ地域臨床型支援の両方を行う、最先端の心理臨床の拠点として、地域の皆様への支援に、臨床心理士を目指す教育と研究を絡めていきたいと思っております。すなわち、これまでの関大キャンパスで行なってきた千里山カウンセリングルームと同様、センターに訪れる方々の個人の心の問題にしっかり寄り添う個人カウンセリングを基本にいたします。一方で、今申しましたような社会的な面にも目を向け、梅田という立地を生かして教員や相談員が得意とする専門分野で病院、施設、企業、学校、地域行政としっかりと連携するアウト・リーチ型の地域臨床活動をも行う予定にしております。企業その他の組織への産業メンタルヘルスやストレス・マネジメント、および市民への啓発活動など、新しい心理臨床センターを構想しています。相談者の来訪を待つて行うカウンセリング等の従来型のサービスに加え、社会や時代の変化と共に、臨床心理士に期待されるサービスの質も変わりつつあります。関西大学臨床心理専門職大学院は、社会の変化に対応した心理臨床のあり方の探求と臨床心理士の教育を行い、その成果を研究を通じて社会に発信していくと考えています。

また、新しい試みの一つとして、法律的な内容を含む相談に対して弁護士法人あしのは法律事務所と連携し、一般市民や企業からの相談に対してワンストップサービスを提供します。

博修士会からのお願い

特別協力金のご協力をいただきました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。会の財政が逼迫しておりますので、本年度も引き続きご協力をお願いいたします。1口1,000円、できれば2口以上お願いいたします。また終身会費15,000円を未納の方は、納入をお願いいたします。

郵便振替 00900-2-68733 関西大学博修士会

特別協力金納入者名簿 (五十音順、敬称略) (平成26年4月1日~平成27年3月31日)

天井 一夫	岩井 治夫	緒方 正則	笠原 俊幸	北川 勝彦	北嶋 弘一	北村 英子	後藤 安子
小林 和代	小松陽一郎	笹倉 淳史	竿田 翔夫	神保 敏明	篠塚 義弘	椿 信二	中原 住雄
西崎 義男	羽間 弘	平野 裕	東村 高良	日野上輝夫	藤井 栄喜	松本 始	松村 弘
水野 一郎	宮下 文彬	村井 豊	山本 善章	横田 伸敬	横山 清美	吉村 耕治	来山 武

大学院ニュース

Graduate School News



東アジア文化研究科の開設と発展

文学部 教授 吾妻 重二

本学の東アジア文化研究科は文部科学省「グローバルCOE」プログラム採択により開設された大学院であり、これまで日本全国の大学院のトップランナーとしてすぐれた実績をあげてきた。以下、その概略を示したい。

1) グローバルCOEと東アジア文化研究科の開設

2007年度、「東アジア文化交渉学の研究拠点形成」プログラムが文部科学省「グローバルCOE」に採択されたことにより、2008年度、本学文学研究科内に文化交渉学専攻を開いた。そして2011年度、これを受けて新大学院「東アジア文化研究科」を開設した。「グローバルCOE」採択は本学唯一のものであるばかりか、最終評価として最高ランクのAA評価を受け、国内はもちろん国外においても広く周知されるところとなっている。

2) 東アジア文化研究科の概要と特色

本研究科では東アジアにおける文化交渉の多彩な様相を人文学諸領域から分析することを目的としている。そのために3つの領域、すなわち「東アジアの言語と表象」「東アジアの思想と構造」「東アジアの歴史と動態」を研究領域として設定し、各領域において高度で専門的な知識と能力を持つとともに国際的発信力を兼ね備えた人材作りを進めている。

入学定員は博士課程前期課程が12名、博士課程後期課程が6名で、定員充足を果たしている。また学生の出身地は日本はもちろん、中国、台湾、韓国、ネパール、ベトナム、オーストラリアなど多岐にわたっており、民族もチベット族、ウイグル族、モンゴル族などきわめて多様である。「東アジア」の「ハブ研究科」として機能しているといえよう。

研究科紀要としては『東アジア文化交渉研究』を毎年1回刊行し、成果を発信している。

3) 院生の活躍

院生の活躍はめざましい。毎年「日中韓伊院生フォーラム」を中国の北京外国语大学、韓国の嶺南大学校および本学で行っており、今年3月北京外国语大学で開催したフォーラムでは北京外国语大学、嶺南大学校、ローマ大学の院生計70余名が参加し、本研究科からは22名が発表する盛会であった。この院生フォーラムの発表は毎年、論文集として中国の出版社から刊行されている。

院生の論文発表の場としては『東アジア文化交渉研究』のほかに、院生論集として『文化交渉』を毎年2回刊行している。

このほか日本学術振興会のDC1、DC2採用の実績もあり、また国費留学生に多く採用されるなど、院生の実績はきわめて充実しているといえる。

4) 輩出する人材

文化交渉学専攻は2008年度以降、7年間で課程博士37名、論文博士17名を出している。

また、後期課程院生は3年間で博士学位を取得した後、北京大学、山東大学、中山大学、厦门大学、寧波大学、武漢大学、国立台湾大学、ベトナム国家大学ハノイ校など名門大学の若手専任教員（助教授・専任講師）として赴任し、国際的に大いに活躍している。国内においては大谷大学助教、国際日本文化研究センター（日文研）PD、奈良高専専任教員、神戸市博物館学芸員、高松市美術館学芸員、大阪大学特任研究員、本学非常勤講師などに就いている。

5) 卓越した大学院として

平成24年度にはこうしたすぐれた業績が認められて文部科学省「卓越した大学院拠点形成支援補助金」に採択され、私立大学としては早稲田大学と並んで最高のS評価を受けた。このような実績は日本国内の大学院において名実ともに傑出したものであり、本学として誇るべきものとなっている。

総会議案書

〈第1号議案書〉

平成26年度事業報告

平成26年4月 1日から

平成27年3月31日まで

[1] 総会に関する事項

平成26年度 総会・学術講演会・懇親会

開催日時：平成26年7月26日（土）14:00～

開催場所：関西大学 校友・父母会館

来賓：池内 啓三 学校法人 関西大学 理事長

前田 裕 関西大学 副学長

寺内 俊太郎 関西大学 校友会会长

畠 勝美 関西大学 校友会事務局次長

◇第1部 総会（議事）：2階会議室

(1) 平成25年度事業報告

(2) 平成25年度収支決算および監査報告

(3) 平成26年度一般会計収支予算案

◇第2部 学術講演会：2階会議室

演題：『アベノミクスと関西経済の活性化策』

講師：会計職専門大学院 教授

宮本 勝浩 先生

◇第3部 懇親会：レストラン「紫紺」

[2] 役員会に関する事項

◇理事会

- 平成26年4月2日（水）18:00～

関西大学100周年記念会館 レストラン紫紺「桃源」

（総会・学術講演会・会報発行計画・決算・予算の件、その他）

◇常任理事会

- 平成27年3月7日（土）17:00～

新関西大学会館南棟 レストラン「チルコロ」

（修士記授与式、入会案内・入会受付手続き・記念写真撮影に関する件、平27年度総会・学術講演会・会報発行計画等）

◇その他

(1) 平成26年4月2日（水）

- 大学院入学式に出席（千里山中央体育館）（会長コーナー）、前期（修士）599名、専門職86名、博士後期68名、学生会員への勧誘資料配布（総務部・広報部・財務部）、

(2) 平成26年4月6日（日）

- 2014スプリングフェスティバル（千里山キャンパス）に参加（会長コーナー）

(3) 平成26年6月14日（土）

- 校友会第103回定時議員会（BIGホール100）に出席（会長コーナー・総務部）

(4) 平成26年7月1日（火）

- 「会報2014年号」を編集・発行（広報部）

(5) 平成26年7月5日（土）

- 全国組織代表者会議（100周年記念会館）に出席（会長コーナー・総務部）

(6) 平成26年9月18日（土）

- 学位記及び博士課程後期課程単位修得証書9月期授与式（BIGホール100）、前期（修士）16名、専門職13名、博士（課程）8名、博士（論文）4名、および秋学期大学院入学式（BIGホール100）において、新会員の入会勧誘資料配布（配布依頼）

(7) 平成26年10月19日（日）

- 平成26年度校友会総会（BIGホール100）に出席（全部署）

(8) 平成27年1月15日（木）

- 校友会新年互礼会（大阪新阪急ホテル）に出席（会長コーナー）

(9) 平成27年3月23日（月）

- 学位記及び博士課程後期課程単位修得証書3月期授与式（BIGホール100）に出席（会長コーナー）前期（修士）541名、専門職80名、博士（課程）43名、博士（論文）6名
- 新会員の入会勧誘資料配布（総務部・渉外部・財務部・広報部・事業部）
- 記念写真撮影（渉外部・事業部・総務部）

(10) 平成27年3月28日（土）

- 校友会第104回定時議員会（100周年記念会館）に出席（会長コーナー・総務部）

〈第2号議案書〉

平成26年度収支決算報告書（案）

一般会計収支決算書

自 平成26年4月 1日

至 平成27年3月31日

（収入の部）

（単位：円）

項目	予算額	実行額	差引差額
経常収入	1,001,000	483,136	517,864
1. 会費収入	420,000	162,000	258,000
① 正会員入会金収入	60,000	30,000	30,000
② 院生会員入会金収入	360,000	132,000	228,000
2. 事業収入	230,000	95,000	135,000
① 総会会費収入	200,000	95,000	105,000
② 広告料収入	30,000	0	30,000
3. 雑収入等	351,000	226,136	124,864
① 雜収入	50,000	38,000	12,000
② 特別協力金収入	300,000	188,000	112,000
③ 受取利息	1,000	136	864
前期繰越金	1,495,331	1,495,331	0
合計	2,496,331	1,978,467	517,864

（支出の部）

（単位：円）

項目	予算額	実行額	差引差額
経常支出	1,233,000	717,057	515,943
1. 一般管理費	273,000	119,378	153,622
① 通信費	60,000	25,328	34,672
② 事務用消耗品費	100,000	38,000	62,000
③ 支払手数料	13,000	7,050	5,950
④ 雑費	100,000	49,000	51,000
2. 会議費	370,000	124,970	245,030
① 総会費	300,000	105,600	194,400
② 諸会議費	70,000	19,370	50,630
3. 事業費	590,000	472,709	117,291
① 印刷費	450,000	400,669	49,331
② 修士記授与記念写真費	100,000	72,040	27,960
③ 記念品費	40,000	0	40,000
予備支出	30,000	0	30,000
予備費	30,000	0	30,000
当期支出合計	1,263,000	717,057	545,943
次期繰越金	1,233,331	1,261,410	▲ 28,079
合計	2,496,331	1,978,467	517,864

総会議案書

特別会計収支決算書

奨学金特別基金

自 平成26年4月 1日
至 平成27年3月31日

(単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	1,204,538	次期繰越金	1,204,731
受取利息	193		
合計	1,204,731	合計	1,204,731

名簿特別勘定

自 平成26年4月 1日
至 平成27年3月31日

(単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	853,276	次期繰越金	853,412
一般会計より入金	0		
受取利息	136		
合計	853,412	合計	853,412

財産目録

平成27年3月31日現在

(資産の部)

(単位:円)

科目	摘要	金額
普通預金	一般会計収支(りそな／難波)	515,031
振替貯金	一般会計収支(ゆうちょ／大阪事務センター)	793,860
通常貯金	一般会計収支(ゆうちょ／大阪事務センター)	45,405
小計		1,354,296
普通預金	特別会計 奨学金特別基金用(りそな／難波)	1,204,731
普通預金	特別会計 名簿特別勘定用(りそな／難波)	853,412
合計		3,412,439

(負債及び正味財産の部)

(単位:円)

科目	摘要	金額
借入金		87,886
預り金		5,000
正味財産	次期繰越金	3,319,553
合計		3,412,439

監査報告書

関西大学博修士会

会長 北嶋 弘一殿

私たちは、平成26年4月1日から平成27年3月31日に至る一般会計収支決算書、奨学金特別基金および名簿特別勘定の特別会計収支決算書、ならびに財産目録について監査を実施いたしました。

監査の結果、上記決算書類は、適正なものであることを認めます。

平成27年5月7日

監事 澤 勲
監事 竹田嗣夫
監事 水野一郎

〈第2号議案書〉

平成27年度一般会計収支予算(案)

自 平成27年4月 1日

至 平成28年3月31日

(収入の部)

(単位:円)

項目	27年度予算	摘要
経常収入	831,000	
① 会費収入	300,000	正会員入会金収入 15,000円×4人
② 院生会員入会金収入	240,000	院生会員入会見込 12,000円×20人
2. 事業収入	180,000	総会出席見込 5,000円×30人
① 総会会費収入	150,000	広告掲載見込 10,000円×3件
② 広告料収入	30,000	お土産料、記念写真代他
3. 雑収入等	351,000	預金利息等
① 雜収入	50,000	
② 特別協力金収入	300,000	
③ 受取利息	1,000	
前期繰越金	1,261,410	
合計	2,092,410	

(支出の部)

(単位:円)

項目	27年度予算	摘要
経常支出	1,083,000	
1. 一般管理費	223,000	総会、役員会案内発送費 文房具、事務用品費
① 通信費	50,000	振込、振替送金手数料
② 事務用消耗品費	80,000	
③ 支払手数料	13,000	
④ 雑費	80,000	
2. 会議費	270,000	懇親会費
① 総会費	200,000	役員会会議費等
② 諸会議費	70,000	
3. 事業費	590,000	会報、総会案内状印刷費
① 印刷費	450,000	
② 修士記録与記念写真費	100,000	
③ 記念品費	40,000	
予備支出	130,000	
予備費	130,000	
当期支出合計	1,213,000	
次期繰越金	879,410	
合計	2,092,410	

* 予備費の支出は、役員会の承認を得るものとする。

平成26年度 第62回博修士会 総会・学術講演会



総会は関西大学校友・父母会館で、7月26日（土）14時から開催された。前田裕副学長、寺内俊太郎校友会会长の来賓挨拶の後、平成25年度の事業報告と収支決算、平成26年度予算を承認し、北嶋弘一會長を全員一致で再任した。

学術講演会では、関西大学会計専門職大学院の宮本勝浩教授から「アベノミクスと関西経済の活性化策」と題して御講演を頂いた。2020年の東京オリンピックを関西地区の第4の矢とすべく、関東とのコネクションを持つことや、官民一体となって諸外国に観光誘致を行うことが提案された。関西の活性化には、東京の真似ではなく、新商品などのアイデアの創造が必要であることも分かり易く語られた。最後に、日本の成功者は「運」を大切にしており、関西大学で学んだ幸運と人的ネットワークを駆使して「運」を呼びこむことが大切であると締めくくられた。続いてレストラン「紫紺」で開催した懇親会は、池内啓三理事長の強い関西大学の掛け声による乾杯で始まり、終始和やかな宴を過ごすことができた。

（博修士会 広報部）

709名の新博修士の誕生 749名の新入生を迎える



2015大学院入学式

平成26年度関西大学大学院学位記（修士・専門職）授与式は3月23日に千里山キャンパスのBIGホール100で行われた。学位被授与者は前期課程（修士）541名、専門職80名の合計621名であった。当日の会場は、修了生とそのご家族で満員であった。また、博士課程後期課程単位取得者は39名、修了者は49名の合計88名であった。

高い教養と技術を身につけ、真理の探究に日夜研鑽してきた修了生に対して、楠見学長は、それぞれの目標を達成するために、大学院で身につけた能力と教養、そして実行力にさらに磨きをかけ、何事にも積極的にチャレンジする人生を歩んで頂きたいと激励した。

平成27年度大学院入学式は4月2日に千里山中央体育館で行われた。春学期の入学者は博士課程前期課程ならびに修士課程606名、博士課程後期課程48名、専門職大学院95名、合計749名であった。

新入生に対して、楠見学長は、自分の本当に好きな研究テーマに巡りあい、強い信念とたゆまぬ努力で学習を積み重ねること、そして自己の研鑽を怠らないだけでなく、心身を鍛え、人との出会いを大切に充実した大学院生活を送って頂きたいとの希望を表明した。

（博修士会 広報部）

会員からのメッセージ

P.2からの続き

が左右にフラフラ揺れ、人間は如何に環境に適応する生き物であるかを改めて実感した。帰宅時に中年の息子たちは「よくぞまともに帰ってきた」とホッとしていた。

夫も今年は卒寿とやらで昨年10月より杖を使い始めたし、私も4か月間の彼の見守りから解放されてホッとしているが、結

論として、やや遅きに失したとは言えラストチャンスの世界一周の旅を体感でき、これまでの人生では見えなかつた世界を知り得て本当に良かったと思っている。トライする気力こそ、老人にとって一番大事なスピリットだと実感している。

お知らせ！

ホームページも見て下さい！

<http://www2.ocn.ne.jp/~kandaimd/>

2015年

発行人 北嶋 弘一／編集人 北川 勝彦

発行所 関西大学博修士会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 関西大学大学院内